

J I P 報告書

—韓国・慶南大学—



6110003
言語教育研究科
小田亜梨沙

19708207
外国語学科
岡田真季

【受け入れ機関について】

今回私たちが J I P のために訪れたのは、韓国の馬山市にある慶南大学校師範大学日本語教育学科です。この学科は将来日本語教師になる学生が通っており、学生によってレベルは違いますが、大学入学前に日本語能力試験 1 級を取得している者もいました。学内の教員は教授が 4 名、講師が 2 名おり、1 名日本人の教員がいました。1 年生～4 年生まで合わせて約 1 3 5 人の学生が学んでおり、開講されている授業は、私たちが見学した「時事日本語」「日本語作文」「基礎日本語」「日本語文法」の他にも「日本語音声教育」「実用日本語会話」「日本文学」等、日本語に関する多種多様な授業が開講されていました。

【費用】

滞在費<ホテル>一泊約7000円×20泊＝	約140,000円
航空券 関空⇄釜山	約50,000円
リムジンバス 姫路⇄関空	約6,500円
海外保険	約15,000円
<hr/>	
計	約211,500円

上記の費用は国際交流基金からの奨学金でカバーされます。

上記以外でかかった費用は、釜山空港からホテルまでのリムジンバス代 6,300W（片道）、毎日のホテルから学校までのタクシー代、4,000W（片道）、食事代、観光やお土産などの個人の費用を含め、3～3.5 万円くらいです（自費）。しかし、韓国は物価が低く、一食 3,000 W（約 250 円）くらいで食べられます。また、慶南大学がある馬山市はソウルと比べて田舎で、目立った観光地がなく、物価もソウルより低かったため、食費以外でお金がかかる

ことが無く、思った以上に自費を安く抑える事ができました。



【実習】

第1~2週目は授業見学、第3週目で実習を行いました。見学した授業は、大学1~2年生の「時事日本語」「日本語作文」「基礎日本語」「日本語文法」「基礎日本語会話」の5科目でした。どの授業も韓国語を使って授業していたので、内容を理解するのは難しかったのですが、教授法などは授業を見ているだけでも分かったので、とても勉強になりました。韓国語訳させることや、文法を中心に教えているところは、教授法的にとっても日本に似ていたと思います。また逆に「基礎日本語会話」の授業では、会話の授業にもかかわらず、生徒のアクティビティがほとんどなかった点で、違いも感じました。第3週目で、実際に「時事日本語」「日本語作文」「基礎日本語会話」の3科目で実習を行いました。普段、先生が韓国語を使って教えている授業で、私たちが日本語だけで教えて、学生がちゃんと理解できるのか、また小学校から日本語を勉強している上級者もいれば、大学に入ってから日本語を勉強し始めたという学生もいて、日本語のレベルもバラバラ、という2つの点で不安や戸惑いも感じました。しかし、実際に授業をしてみると、学生は真剣に話を聞いて、積極的に質問してくれるなど、反応も良かったので、楽しんで授業をすることができました。今回の経験を今後に生かしていきたいです。



【行事】

私たちが滞在中、学内の行事としては体育大会がありました。これは師範大学の学科対抗で、各学科が体育大会前からトーナメントを行い、決勝を体育大会で行っていました。しかし、日本の学校の体育大会と違う点がいくつかありました。それは、試合中、応援の学生はチヂミを焼き、マッコリを飲みながらカラオケをするという事でした。日本の学校ではあまり見られない風景ですが、お酒文化が進んでいる韓国ならではの行事だと思います。

した。そこで、授業では交流がない学生と話したり、一緒にお酒を飲むことで様々な学年の学生と交流する事ができました。正直、試合を真剣に応援している学生はいなかったように思えます。また、この他にも二泊三日で学科別に合宿を行うMTという行事もありましたが、今回は上手く予定が組めなかったようで中止になりました。MTも二泊三日お酒を飲みながらゲームを行い、学生間の交流を図るものらしいです。韓国の大学ではお酒を通じて学年関係なく交流する機会が多々あり、とても充実した学生生活を送っているように思えました。

【観光】

週末の休みになると、韓国人の友達や慶南大学に留学している日本人の友達と釜山に観光に行きました。釜山は、馬山と違い日本人観光客も多く、日本語で表記してある店も沢山ありました。都会的な部分もあれば、屋台が立ち並び人々の活気で溢れている韓国独特の雰囲気も合わせ持っていて、とても魅力的な街でした。色々案内してもらい、週末は充実した楽しい日々が送れました。また、日頃の食事も毎日大学の近くの店に連れて行ってもらいました。チゲ、クッパ、ビビンパなどの有名な韓国料理を始め、アグチムといった馬山名物のとても辛いアンコウの炒め物も食べました。リーズナブルかつボリュームもあっておいしかったので食事は大満足でした。



【感想】

今回 J I P に参加して、本当に貴重な体験をさせて頂きました。何よりも、実際に教壇に立って教えたという経験は、私の財産です。今回の経験を通じて「教師になりたい」と、改めて実感しました。また、海外で生活することで異文化交流を通して韓国人の友達もできて本当に楽しかったです。学ぶことの多かった充実した 3 週間でした。ありがとうございました。(小田亜梨沙)



今回、私は二回目のJ I P参加で、経験があるということであまりJ I Pに対する不安はなく参加しましたが、国が違えば教育方法も違い、また学生の雰囲気も違い、実際、韓国に行ってから戸惑うことが多かったです。韓国で実習を行って思ったことは、韓国の学生は勉強熱心だということです。分からないことがあるとすぐに質問してくれるのですが、どれもレベルの高い質問で、まだまだ勉強不足の私には答える事が出来ず、悔しく感じる事がありました。この経験から、「どんな質問にもすぐに答える事の出来る教師になりたい」と強く思えるようになりました。今回、韓国でのJ I Pを通して学んだこと、感じたことを大事にし、これからの自分の勉強に役立てていきたいと思います。今回、J I Pに関してお世話になった方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。(岡田真季)

